

対馬市厳原における歴史的石塀保全を目指した住民参加型街路整備事業に関する考察

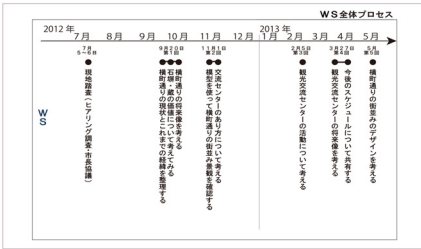
福岡大学 工学部 社会デザイン工学科 景観まちづくり研究室 萩尾愛子・柴田久・石橋知也

■背景と目的

都市計画道路は、人口増加や都市の拡大、車社会の到来などから、その多くが高度経済成長期に都市の骨格として計画決定された。しかし、計画当初のこうした背景は現在までに変化し、都市計画道路の積極的な見直しが進められている。また近年、文化財保護法が改正されるなど、歴史的な文化財に対する考え方の転換だけでなく、観光やまちづくりの核として活用する施策の方向性が模索されている。しかし、特に地方において未指定文化財はその価値が認識されにくく、急速に変化している。

本研究では、対馬市厳原町横線を事例に、歴史的石塀保全を目指した街路整備事業のプロセスを詳述し、地方での都市計画道路の見直しを巡る合意形成の要点と手順について考察することを目的とする。

■対象地



II. 第1回 WS

■主な活動内容

I. 現地調査 (ヒアリング調査、市長協議)
沿線住民へのヒアリング調査に加え、横町線を整備していく上で重要な歴史資源の把握を行った。現地調査の結果を踏まえて、大学ならびにコンサルタントは市長および市役所に対し、拡張後の幅員を原案 (12m) だけでなく、複数候補提示すること提案した。

II. 第1回 WS

【開催日】平成 24年 9月 20日
本 WS では、ヒアリング調査結果を基によまぢやの曲がり角 (石塀)、茂村薬局の蔵の歴史的価値および重要性の確認を行った。加えて参加者は、グループごとに横町線および厳原全体の現状等について意見を出し合い全体で共有した。

III. 第2回 WS

【開催日】平成 24年 11月 1日
本 WS では、第1回 WS の意見を踏まえ拡張後の街路幅員を確認できるような幅員構成の異なる3案 (12m、9.5m、8.5m) の模型ならびにメトリッド・アメリットを可視化した参加者を用いて、設計案の特徴を説明した。参加者はグループごとに模型を用いて拡張後の横町線のスケール感を確認し、どの案が良いか石塀は保存が復元かについて意見をまねと、全体で意見の共有を行った。

IV. 第3回厳原下町まちづくり整備委員会

【開催日】平成 24年 12月 19日
本協議は、今後の方針について共通認識を持つため、市役所、コンサルタント、大学、まちづくり整備委員会の四者で行われた。ここでは、第2回 WS に際し整備委員会より提示された懸念事項に対する意見交換を行い、大学はこれまでに得られた結果を踏まえ、地権者と地権者以外の住民の双方が納得でき、尚且つ特定の地権者に対する利害問題が解消できるような案形、幅員構成案を提示した。

V. 第3回 WS

【開催日】平成 25年 2月 5日
本 WS では、横町線付近に建設予定である観光交流センターの詳細設計の検討を行った。参加者は長崎県他の地域で行われている観光事業について学び、それを踏まえた交流センターに求めるコンセプトや現在対馬で行っている活動等について意見を出し合い、全体で共有した。

VI. 第4回 WS

【開催日】平成 25年 3月 27日
本 WS では、第3回 WS の意見を踏まえ作成した観光交流センター (仮称) の3D平面図および3D映像を用いて、設計案の特徴を説明した。参加者はグループごとに①気に入った点②気になる点について意見を出し合い、全体で意見の共有を図った。

III. 第2回 WS

V. 第3回 WS / VI. 第4回 WS

